

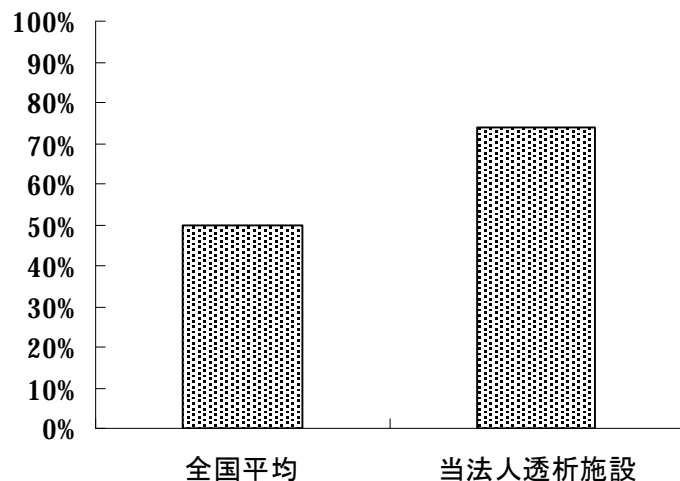
昨今、「医療崩壊」「医師不足」ということが盛んに言われるようになりました。公的病院が休診に追い込まれ、救急患者の受け入れ困難による「たらいまわし」。肉体的にも精神的にも限界だといって一斉に退職する医師達も後をたちません。

政府・厚労省はずっと「医者は余っている」「医療費増大で国は崩壊する」（いわゆる医療費亡国論）をとらえてきました。しかしやっとな日本の医師数は先進国中最低レベル、GDP（国内総生産）に占める医療費の割合も諸外国より低いことを認めました。一方、平均寿命などの公衆衛生指標が日本は世界一です。少ない医療スタッフがまさに骨身を削って医療を支えてきたといえます。しかしそれも限界に来てしまいました。

良質な医療と福祉を維持するためにはそれ相応のお金があることがようやく認識され始めた矢先、100年に一度の大恐慌となってしまいました。医療費抑制政策はこれからも続く公算が大きいわけであり、高額医療である透析にとっても厳しい時代が続きます。度重なる診療報酬の切り下げにより、夜間透析をやめたとか、病院を廃業したとかという話をきくようになりました。

しかし私たちにはこの状況を打開できる自信があります。それは偕行会グループの伝統である最先端の透析医療です。もちろん瀬戸共立クリニックはその集大成として、最新の透析液の採用、極限まで推し進めた透析液の清浄化など最高水準を実現しています。

さらにもう一つの柱となる「合併症対策」にも抜かりはありません。透析患者様が起こしやすい合併症を早期に見つけて顕在化する前に手を打つという方法は、偕行会が全国のトップランナーであると自負しています。その一例として、糖尿病で腎臓を悪くして透析されている方の5年生存率は約50%ですが、当法人透析施設に通院されている方では74%です。



透析を受けている方の5年間の生存率(糖尿病の方)